



宗谷シーニックバイウェイ北海道

宗谷シーニックバイウェイルート（以後、宗谷SBW）は、稚内市、猿払村、豊富町、礼文町、利尻町、利尻富士町、浜頓別町の7市町村に跨がる日本の最北端のシーニックルートです。ルート内の主たる道は、一般国道3路線（豊富バイパス含む）、道道8路線ですが、礼文・利尻島を結ぶフェリー航路も“海のみち”として位置付け、活動を展開しています。

加えて、7市町村を跨ぐ宗谷SBWは、ルートの特徴が来訪者にも分かりやすいように地域でロード名を設定し、「宗谷周水河ロード」、「オホーツクホタテロード」、「北の浮島航路」といった13のロードから構成されています。

2016年はルート指定を受けてから10周年の節目となる記念の年です。2015年からは、浜頓別町のルートが加わり、道路景観の向上を中心に活動する団体をはじめ、観光協会や商工会議所・商工会、自然環境保護団体、交通事業者など25の多様な活動団体から構成されています。

「あたたかい最北のみち」を目指して

日本最北端に位置する宗谷には、利尻山を中心とした荒涼ながらも圧倒的な雄大さを誇る恵まれた自然・観光資源があります。それらは、国内外からみても第一級の資源と言えるでしょう。このような資源を多くの方が五感で堪能できるよう「あたたかい最北のみち」をルートのテーマとして掲げています。また、テーマの実現のために“心からのもてなし”を活動の基調としております。

具体的な活動は、活動計画に基づき「景観・環境分科会」と「情報・観光分科会」の2分科会が中心となり継続的に展開されています。例えば、「景観・環境分科会」は、宗谷の玄関口である稚内空港周辺の植樹



小西 信義 (こにし のぶよし)

宗谷シーニックバイウェイルートコーディネーター
（(一社)北海道開発技術センター調査研究部研究員）

1984年兵庫県生まれ。幼少期から両親に連れられ北海道を旅しながら、北海道の素晴らしさをすり込まれる。大学進学を期に北海道へ。大学の専門は、雪かき。入社後、2015年から宗谷シーニックバイウェイのルートコーディネーターを担当する傍ら、札幌発着の広域的雪かきボランティアの実践的研究を継続している。



秀峰利尻富士を臨める
抜海（ばっかい）線

地平線まで続くエサヌカ線



帯の除草・花植え活動、「情報・観光分科会」は、ルート内の旬な観光情報（イベントや見頃のお花など）を観光客に発信する週1回のニュースレターの発行等を行っています。また、2013年度から宗谷地域の観光に関係する若手の方が自由に意見交換を行う「しゃべり場」を開催し、次世代の担い手の発掘にも精力的です。

宗谷の新しい観光スタイルの開発に向けて～宗谷版スイス・モビリティ～

継続的で粘りのある活動だけではなく、新たなチャレンジも展開されています。宗谷地域は、雄大な自然を活用したサイクリングロードやフットパス・散策路などが点在しており、シーカヤック等のアクティビティ体験も各地で実施されています。しかし、各コースや体験等は、それぞれの地域・区間で完結している上、二次交通^{*1}の脆弱さも旅行者の誘致において後塵を拝している現状です。そこで、各コースや体験等をつなぎ合わせることで、旅行者が自由に移動手段を選択し、目的地までの移動自体を楽しむ新たな旅－宗谷版スイス・モビリティの取り組みを2015年から推進しています。

お手本としているスイスでは、政府、民間企業、交通機関等が連携し、国内全域に自転車やカヌー、インラインスケート、フットパス等のルートを設定し、案内サインの設置やルートマップ、多言語のウェブサイト、手荷物の輸送等を整備しています。これらの整備事業により、旅行者は自転車・カヌー・インラインスケート・トレッキング等の人力による移動と公共交通を自由に組み合わせながら、スイスの大自然を堪能できるようになっています。経済効果としては、驚くことに、年間3～5億フラン（約270億～450億円）と推計されています。

宗谷SBWは、スイスの雄大な自然環境と「何もない」ことを逆手にとった観光戦略に共通項と宗谷地域の潜在的な可能性を見出し、宗谷の新しい観光スタイル－宗谷版スイス・モビリティ－の開発に向け、様々な取り組みを展開しています。2015年度においては、宗谷地域で5回の検討会、スイス・ツェルマツ観光局で日本人向けの観光プロモーションを担当している観光カリスマ^{*2}山田桂一郎氏や静岡県掛川市にて地元サイクリストによるガイドサイクリングを観光商品化するなどの取り組みを行っている佐藤雄一氏を講師とした勉強会、美深から稚内、利尻島・礼文島を跨いだ試走調査、スイス・モビリティの本場スイス・ツェルマツへの視察が実施され、宗谷版スイス・モビリティの実現に向けて様々な取り組みを展開しています。

宗谷シーニックバイウェイと天塩川流域ミュージアムパークウェイの連携～みちと川との連携～

また、他ルートとの連携も特筆される点です。道北13市町村を跨ぐ1級水系である天塩川の活用は、宗谷版スイス・モビリティの実現に向け必要不可欠な要素です。そのため、候補ルートである天塩川流域ミュージアムパークウェイとの連携も積極的に進められています。両ルートが「道北版スイス・モビリティ」という共通目標を掲げることにより、新しい観光スタイルの開発に向けた取り組みは超広域で展開され、結果、旅の多様性と選択肢、地域資源の顕在化と最大化はより拡大されると期待されます。両ルートの連携は、言うならば、みちと川との連携であるかもしれません。今、道北において、みちとみちとの出会いは、みちと川との出会いへと拡大の一途を進んでいるのです。



宗谷の玄関をお花でおもてなし



宗谷版スイス・モビリティ試走（稚内駅）



マッターホルンを背景に本場のスイス・モビリティを視察

*1 二次交通

複数の交通機関を使用する場合の2種類目の交通機関のことで、観光については空港や鉄道の駅から観光目的地までの交通のことを示す。

*2 観光カリスマ

平成17年に観光庁が、各地で観光振興の核となる人材を育てていくため、「観光カリスマ百選」として選定した人々。